

2025年7月7日

公益財団法人大学基準協会 2025年度事例報告会

神奈川歯科大学における内部質保証体制と 取り組み事例紹介

神奈川歯科大学

教育企画部部長 猿田樹理

教育企画部副部長 香西雄介



神奈川歯科大学
KANAGAWA DENTAL UNIVERSITY

1. 神奈川歯科大学の基本情報
2. 本学の内部質保証システム
3. 本学の特色ある取り組み事例
4. 今後の展望



1. 神奈川歯科大学の基本情報(概要)



神奈川歯科大学
KANAGAWA DENTAL UNIVERSITY

学校法人神奈川歯科大学の沿革と概要 <創立115年>



- 1910(明治43)年 東京女子歯科医学校として文部省の認可(東京神田猿樂町)
- 1922(大正11)年 東京女子歯科医学専門学校へと昇格
- 1934(昭和9)年 日本女子歯科医学専門学校へと改称
- 1947(昭和22)年 GHQの専門学校廃止命令による学生募集停止
- 1950(昭和25)年 日本女子歯科厚生学校として再興
- 1952(昭和27)年 日本女子衛生短期大学を開学
- 1954(昭和29)年 日本女子歯科厚生学校を日本女子衛生短期大学に統合
- 1963(昭和38)年 神奈川歯科大学として神奈川県横須賀市に移設
- 1975(昭和50)年 神奈川歯科大学大学院を開設
- 2002(平成14)年 横浜研修センター横浜クリニックを開設
- 2013(平成25)年 湘南短期大学を神奈川歯科大学短期大学へと改称



開設者:大久保潜龍



昭和10年:日本女子歯科医学専門学校

所在地

神奈川県横須賀市稲岡町82番地

設置研究科・学部

【大学院研究科】 歯学研究科

【学部】 歯学部 短期大学部(看護学科 歯科衛生学科)

<学生数・教職員数>

学生数: 大学院学生:70人、 歯学部学生:690人、 短期大学部学生:369人

教員数: 292人 職員数: 282人

* 2025年5月1日時点



昭和38年:現在の横須賀キャンパスへ移転

建学の精神

全てのものに対する慈しみの心と生命を大切にする愛の精神の実践

教育理念

歯科医師としての熟練と人間としての優しさを身につけるために、学を学び、技を習い、人を識る愛の教育

教育目的

教育基本法の精神に基づき、高き人格と豊かな見識を養い、かつ歯科医学に関する高度の学術理論及び技術を教授・研究し、有能な歯科医師を育成することを目的とし、もって文化の向上と社会福祉の増進に貢献することを使命とする。

学校法人神奈川歯科大学の主な施設（メインキャンパス:神奈川県横須賀市）



2号館（講義棟）



1号館（実習棟）



キャンパスセンター

附属病院

学校法人神奈川歯科大学の主な施設(サテライト施設)



東京歯科衛生専門学校



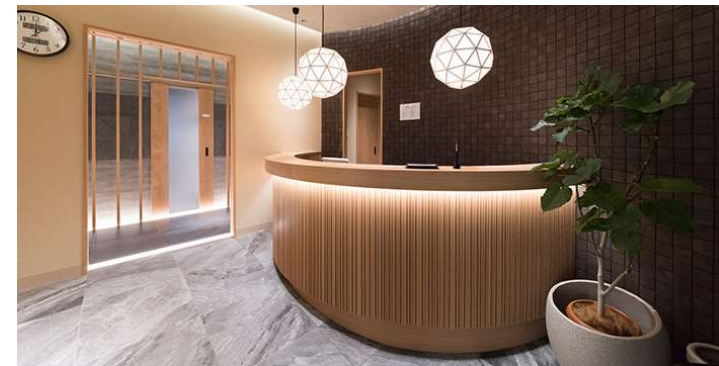
横浜研修センター
横浜クリニック



羽田空港第1ターミナル歯科



羽田空港第3ターミナル歯科



歯科・健脳クリニック日本橋

2. 本学の内部質保証システム



神奈川歯科大学
KANAGAWA DENTAL UNIVERSITY

KDU2028計画 7本の柱およびマイルストーン

1. 教育

- ①建学の精神に基づく4ポリシー適正化と達成
- ②国家試験新卒合格率80%前後の維持
- ③各学年における留年休学率20%前後への平均化
- ④最低年限国家試験合格率50%の達成
(休学者には兵役・語学学修等による休学を含む)

2. 研究

- ①日本随一の特定研究テーマの創造
- ②10年後、20年後に活躍できる人材の育成

3. 臨床

- ①医歯学連携の強化
- ②歯科2次・3次医療機関としての体制整備
- ③TDH臨床研修施設のさらなる充実と東京芝浦に新たなサテライトクリニックの設立
- ④スマート・デンティストリーの推進によるイノベーションへの挑戦

4. 管理・運営

- ①長期財務計画に基づく中期的財務計画の策定
- ②インフラストラクチャーの整備と目標年の設定
- ③本学の永続的かつ安定した運営

5. 地域・社会・国際連携

- ①地域貢献の推進
- ②官産学協力関係の確立
- ③大学連携の促進
- ④同窓会援助と海外支部の発足

6. 内部質保証

- ①内部質保証システムの合理化
- ②内部質保証の取り組み
- ③自己点検・評価報告書の確認

7. 短期大学部

- ①初年度教育強化
- ②持続可能な教員組織構築
- ③教員の意識改革推進
- ④国家試験の高い合格率維持
- ⑤卒業後の就職、進学を含む包括的ケアを大学と同窓会が一体となって推進する。
- ⑥教員の教育力充実と臨床に訴求力のある研究を進める。
- ⑦全教員一丸となり両学科の組織力の充実を目指す。
- ⑧コアとなる教員の育成により教育レベルの安定維持を図る。
- ⑨次代の指導者養成を行う。
- ⑩3年制という短期大学の特徴を維持する。
- ⑪高い教育力から実現するアウトカム（国試合格率）によって選ばれる短期大学を目指す。

2019.....2020.....2021.....2022.....2023.....2024.....2025.....2026.....2027.....2028

2013年～2017年
の教育改革
(第1期改革期)

2019－2020
第2期改革期
(加速期)

2021－2024
第3期改革期（成長期）

2025－2028
第4期改革期（充実期）

内部質保証体制の整備

● 2017年 第2期機関別認証評価受審(大学基準協会)

指摘事項:

- 規程に基づき自己点検評価を行う体制を設けているが、自己点検・評価の実施は定期的ではないこと。
- 自己点検評価の結果を改善につなげる全学的な体制が十分に確立していないこと。
- 自己点検評価を定期的に実施し、その結果により得られた課題を改善・改革へとつなげる体制を構築し、適切に機能させること。



内部質保証の強化

対応:

- 2017(平成29)年度以降、毎年度、**自己点検評価報告書**を作成し公表
- 2018(平成30)年度からは、**外部評価委員会**を設置して自己点検評価に対する**第三者評価を実施**
- 2020(令和2)年度からは、自己点検評価委員会とは別組織として**内部質保証委員会**を設置し、**自己点検・評価活動の妥当性を監督するとともに、その結果をフィードバックして改善**に努めている。

神奈川歯科大学の特色

● 2024年 第3期機関別認証評価結果で長所として取り上げられた点

➤ 内部質保証の仕組み・機能に向けた工夫

- ✓「KDU2028計画」に基づく事業計画・事業報告を通じた点検・評価
- ✓「外部評価委員会」による評価、その結果を参考にした改善・向上
- ✓「内部質保証委員会」による全学的な評価及びその結果に基づく改善・向上

➤ 学部・研究科レベルの質保証に向けた取り組み

- ✓「教育企画部」が主体となって実施する教育課程の適切性の点検・評価
- ✓「教学IR室」が蓄積したデータを活用しての点検・評価
- ✓「教育委員会」での審議、教授会での審議を経て取り組む改善・向上
- ✓FDの機会を通じた教員からの意見収集

内部質保証・自己点検の特徴

●学長

- ✓ 教育理念の実現に向けて、**教育研究活動を統括し、内部質保証を全学的に推進する体制**を整え、各組織の活動を促進する。

●自己点検評価委員会

- ✓ 中長期計画に基づいて自己点検・評価を行い、PDCAサイクルを推進する。**外部評価も取り入れ、改善が必要な点については改善方策を含めて報告し、改善計画立案のための資料を提供する。**

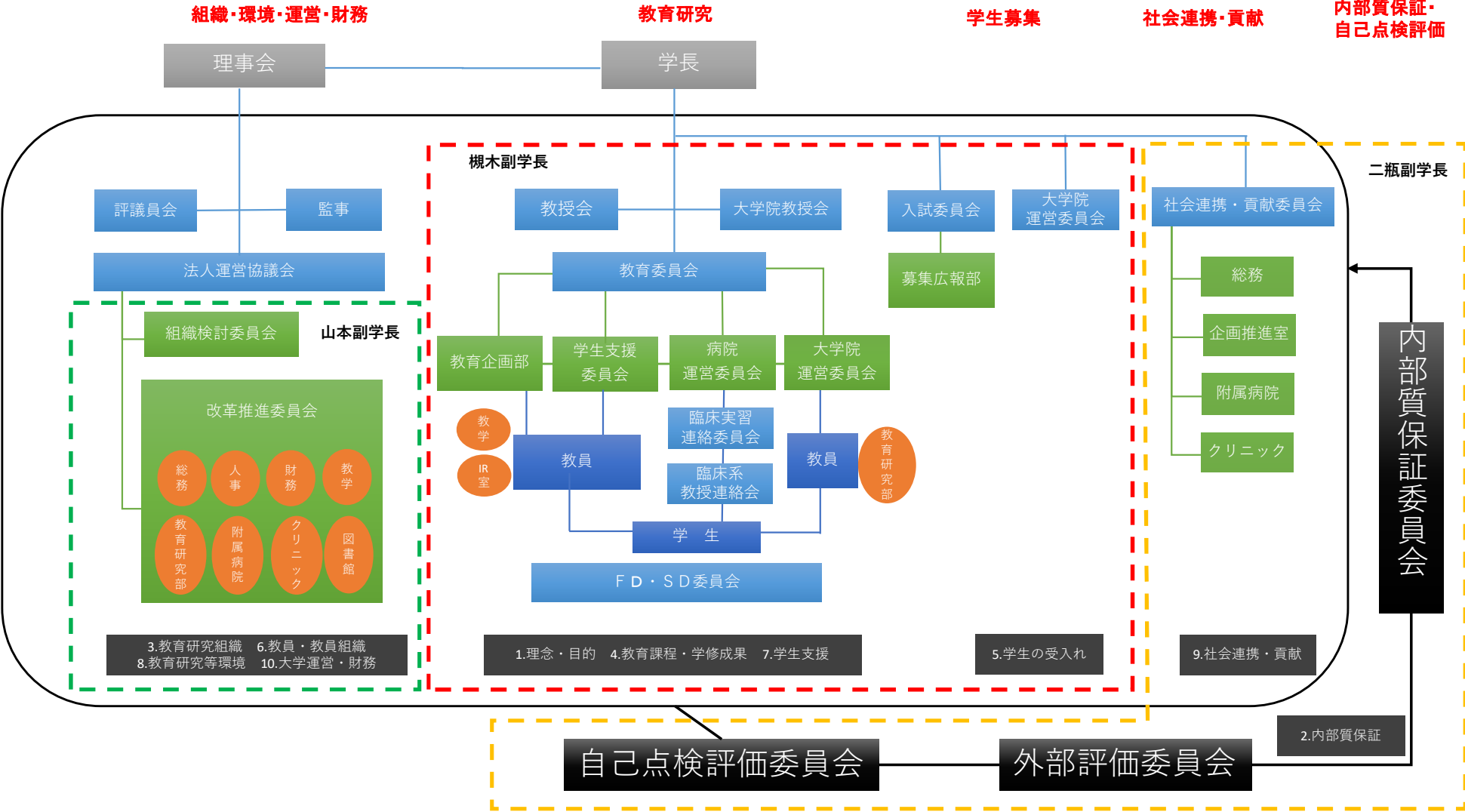
●外部評価委員会

- ✓ 自己点検評価に対し、**第三者的視点から客観的な評価・意見を行う。**

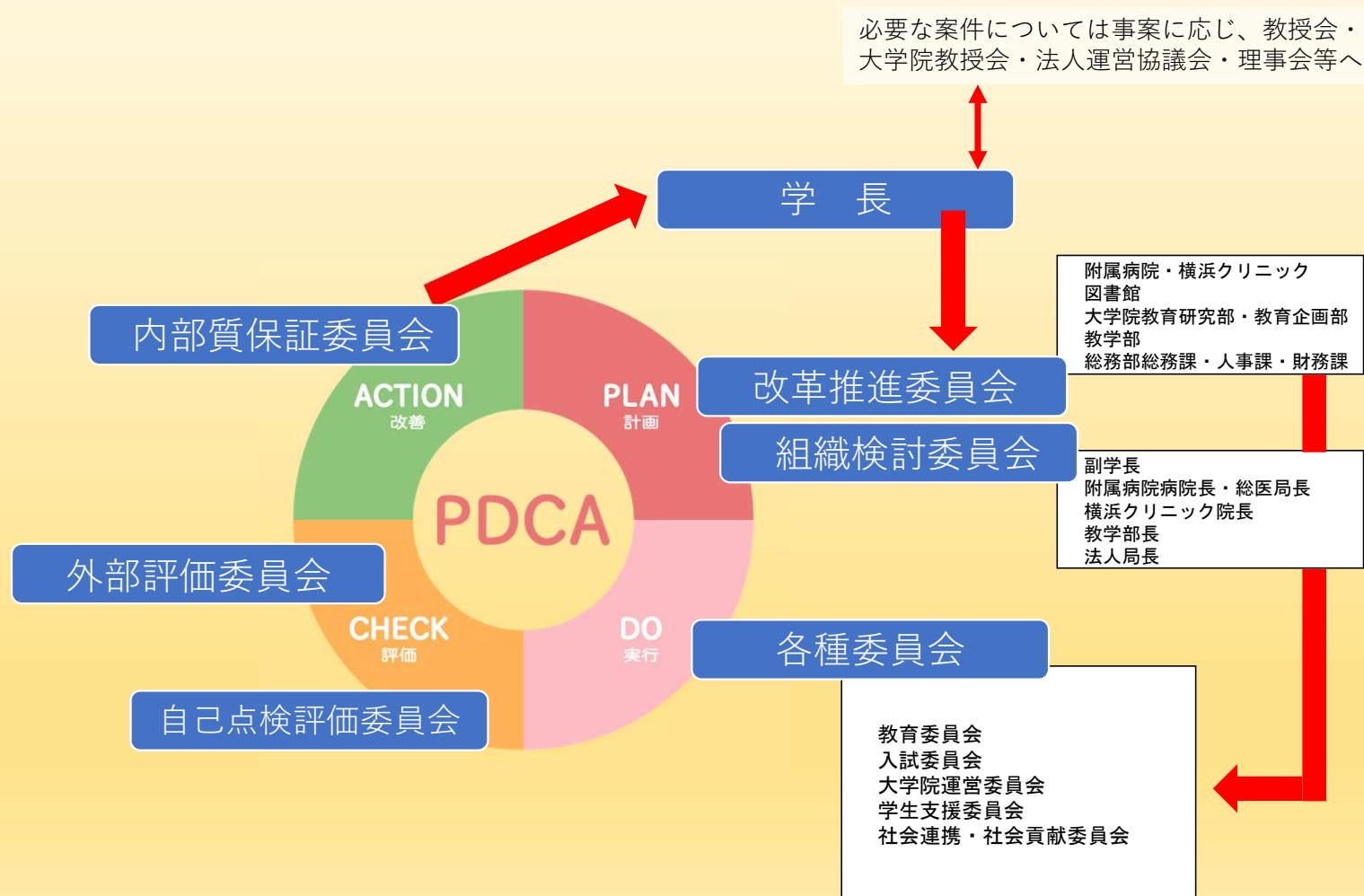
●内部質保証委員会

- ✓ 全学的な内部質保証体制の整備を担い、**自己点検評価の改善提言とPDCAサイクルの推進を監視する。**

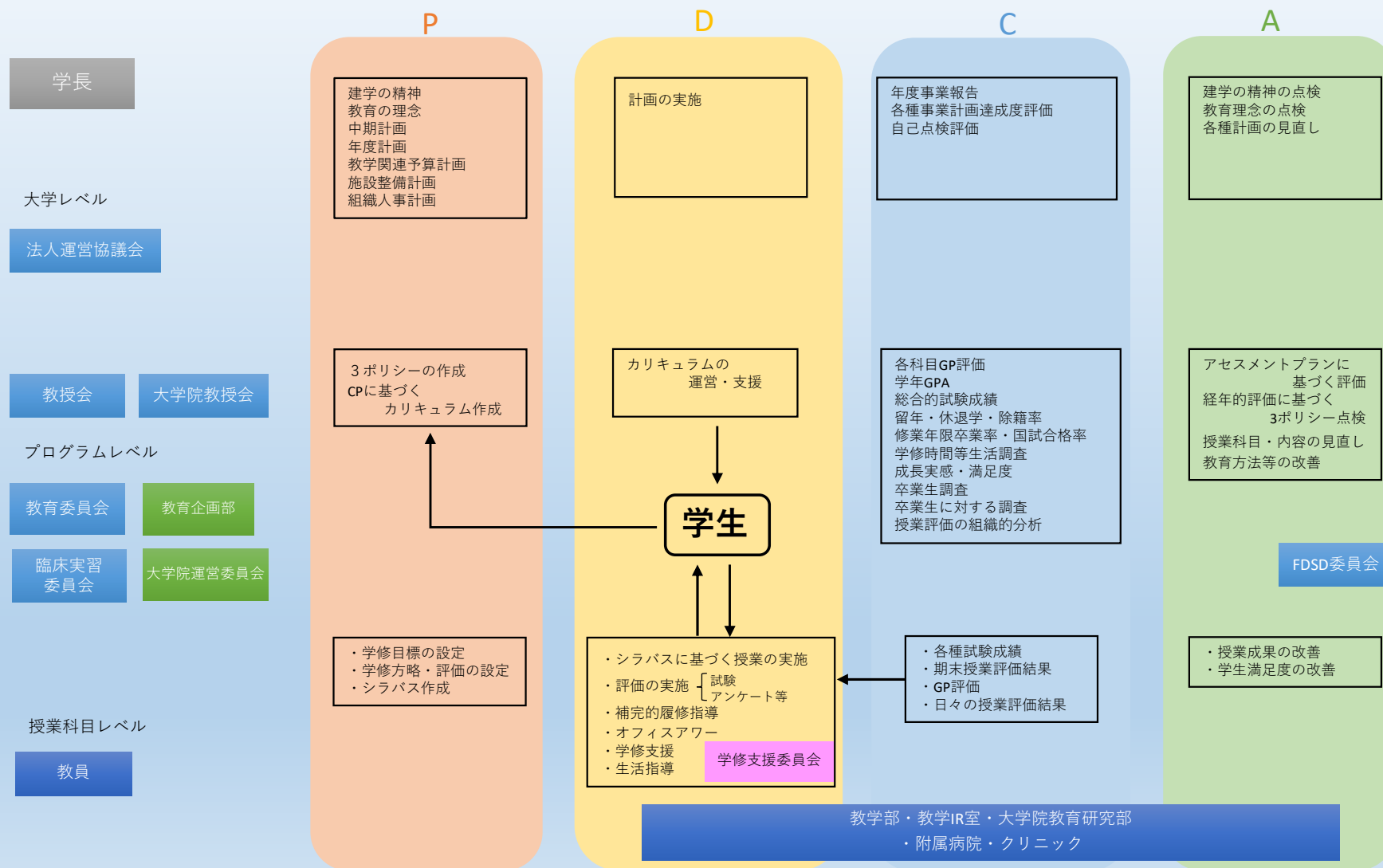
内部質保証体系図(全般)



内部質保証の手続き



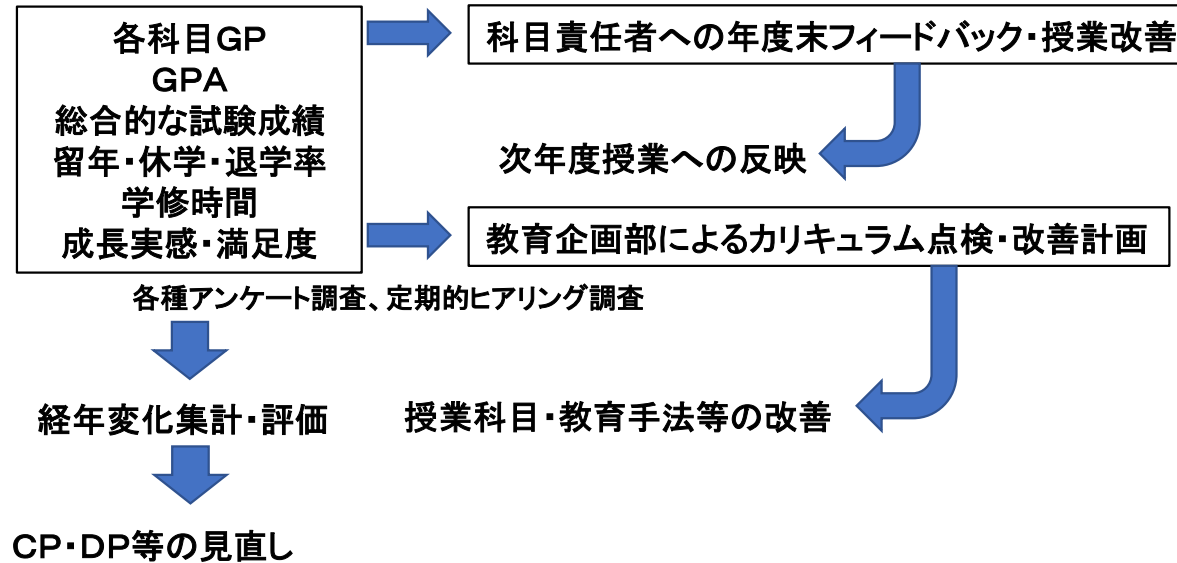
内部質保証体制(教育)



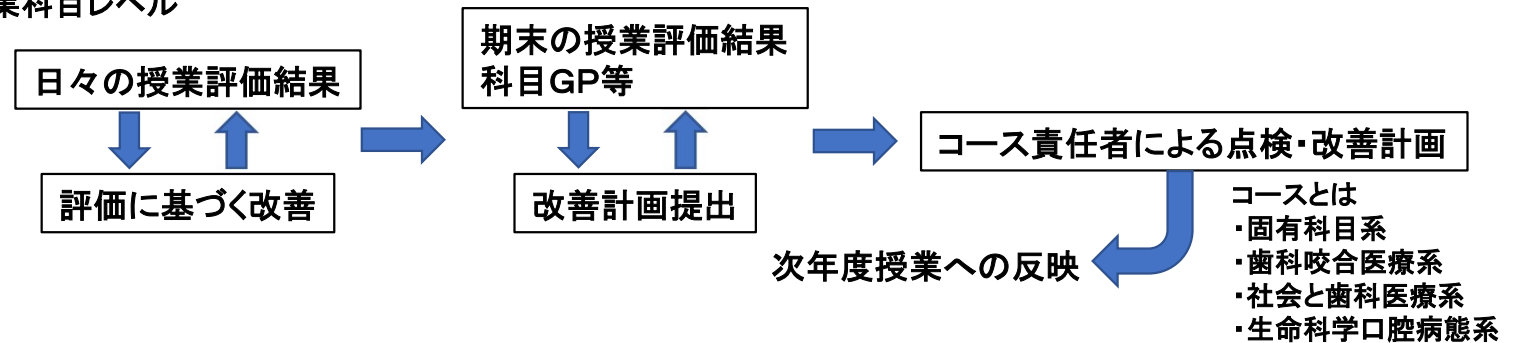
内部質保証体制(教育)

学修評価のフロー

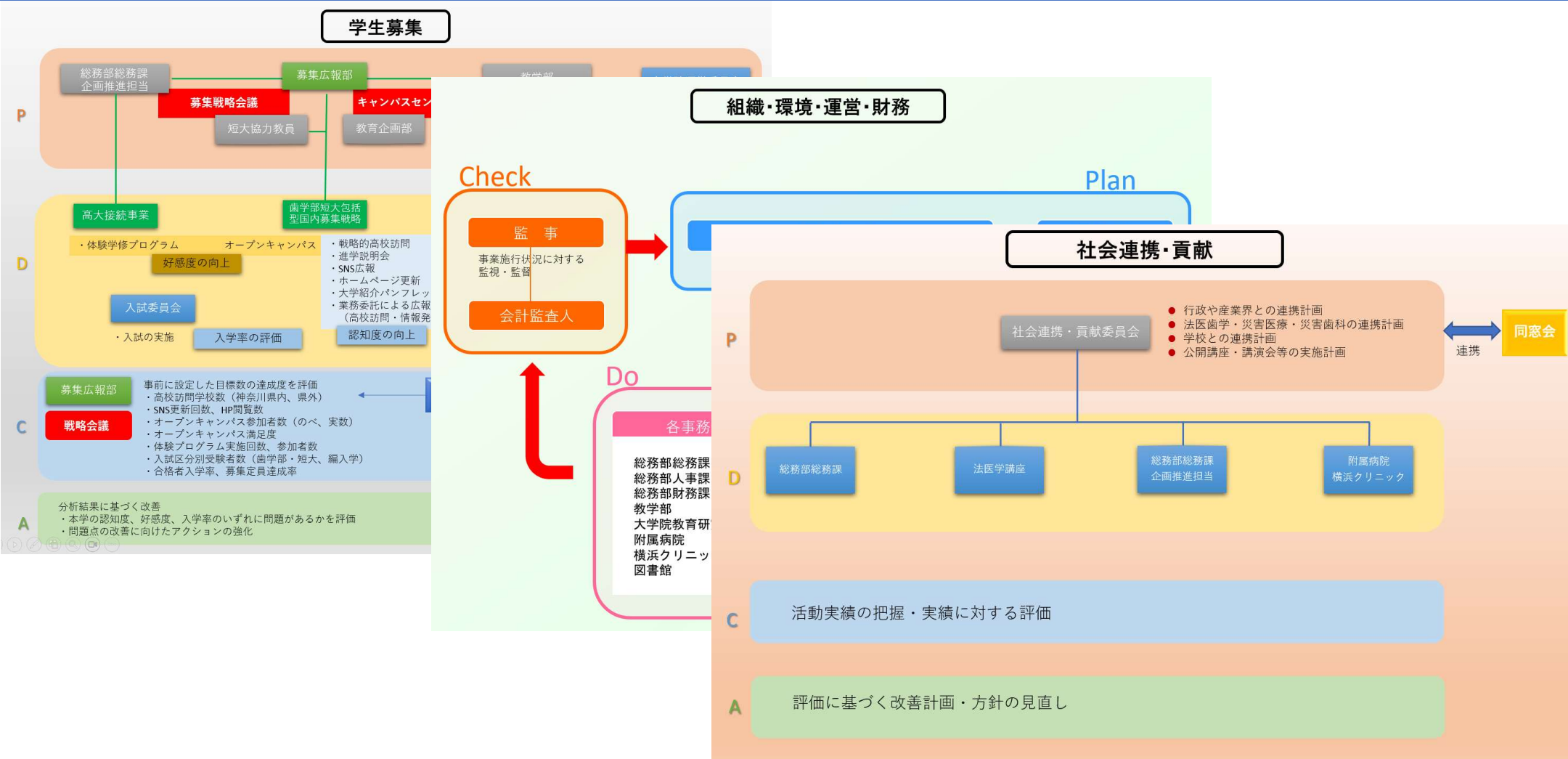
1. プログラムレベル



2. 授業科目レベル



その他、責任体系のPDCAサイクル



3. 本学の特色のある取り組み事例



神奈川歯科大学
KANAGAWA DENTAL UNIVERSITY

神奈川歯科大学の特色ある教育 およびその質保証

- ① 「5 Stage制」の導入
- ② 1～3年次の成績優秀者を対象とした「自己探求学」
- ③ 留学生対象の歯科医師に必要な語学力向上を目指す科目
- ④ 歯学部教育の質保証の取り組み

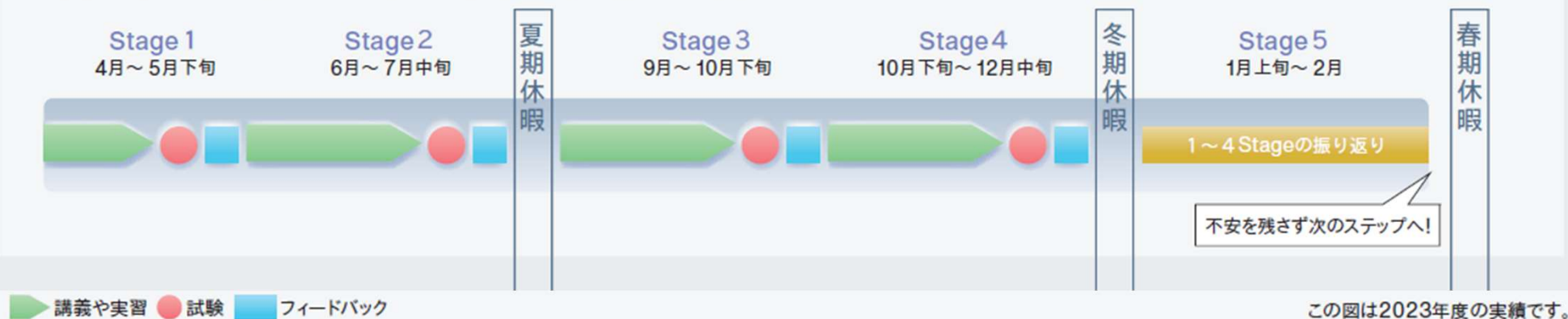
① 「5 Stage制」の導入

1年をおよそ7週ごとの5 Stageに分割し、
短期間に少ない科目を集中的に学ぶカリキュラム構成

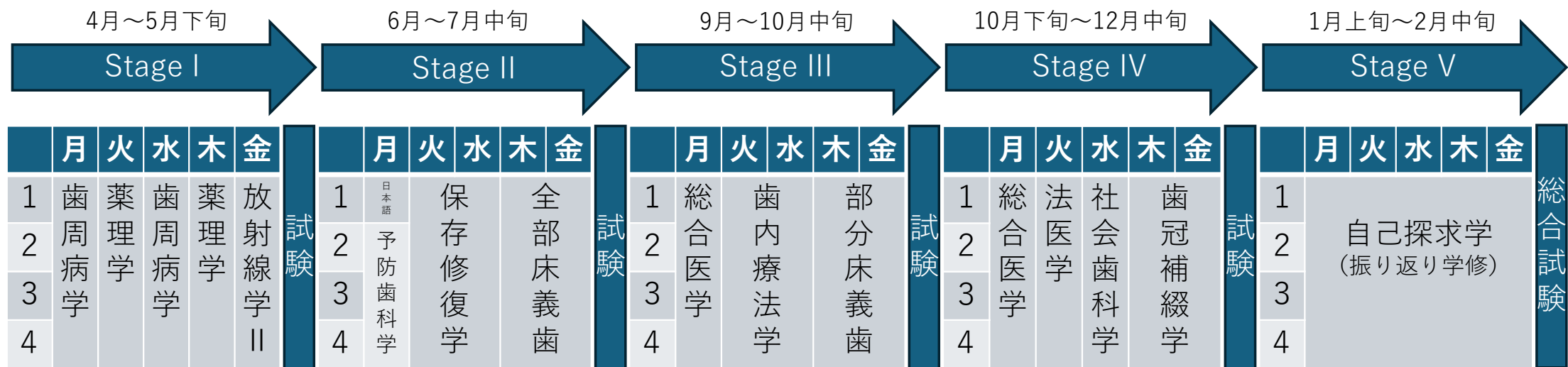
神奈川歯科大学:4Stage +1Stage (総まとめ&弱点克服Stage)

講義後もオンデマンド配信で自学自習できます。

自宅でも、いつでも、どこでも好きなだけ講義を復習できます。



3年次の場合



少ない科目(3科目程度)を短期間で集中的に学ぶ学修形態

5 Stage制のメリット

学生側

- 同時並行の負担が減り、各科目に集中しやすい
- 忙しいカリキュラムでも、目の前の課題に集中できる点で心理的負担が軽減
- 科目の数が限られることで、各ステージごとの学修目標がわかりやすく、理解が深まりやすい

教員側

- 限られた期間・科目数に対して対応すればよいため、フィードバックや面談を丁寧に行える
- 各ステージごとに評価が行われるため、学修到達度やつまづきを早い段階で把握可能

5 Stage制のデメリット

学生側

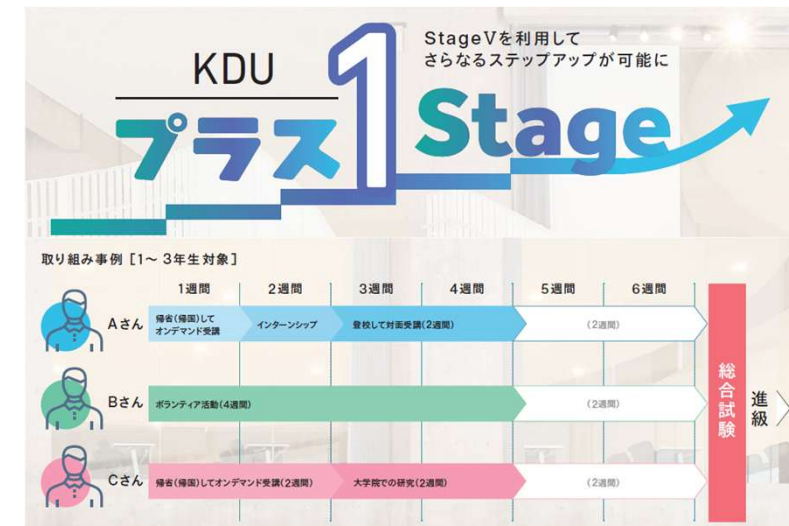
- 試験が毎ステージで実施されるため、常に試験勉強に追われる可能性がある
- 短期集中型であるため、欠席が学修進度に与える影響が顕著になりやすい

教員側

- 特定のステージに授業が集中しているため、教員のスケジュールが一定の期間に限って過密になりやすい。

② 1～3年次の成績優秀者を対象とした「自己探求学」

- Stage V「自己探求学」では、Stage I ～ IVの内容を振り返る授業が実施される。
- この振り返り授業は、年度末の総合試験や臨床実習前の共用試験に対応した内容となっており、これまでの学びを体系的に整理・再確認することを目的としている。
- 一方で、Stage I ～ IVにおいて成績や学修態度が優秀であると認められた学生は、この期間を、自らの視野をさらに広げるための機会として活用することができる。
- 多様な価値観をもつ人々との出会いを通じて、自己成長や将来像の明確化につなげていくことを目指している。



KDU プラス1 Stage

StageVを利用して
さらなるステップアップが可能に

StageVはI~IVで学んだ内容を振り返り、知識を定着させるための授業を行う期間です。さらに2024年度から、成績が優秀で学習態度も優れた学生のために、StageVを柔軟に活用した「自己探求学I~III」が開講されました。自分に合った方法で様々な価値観の人たちと交流し、新たな気づきと自己成長の機会を得ることができます。ボランティア活動、研究、インターンシップ、国内外短期留学での研鑽・体験等を通じたアクティブラーニングを自分で選んで実践することにより単位が認定されます。

1

ボランティア活動を経験

文部科学省が推奨しているボランティア活動による単位認定制度を導入し支援します。活動先については、大学の推奨する箇所または自身の開拓も可能とします。

【ボランティア活動例】

- 地域の交流・活性化やまちづくりのボランティア
- 被災者支援のボランティア
- 医療支援のボランティア



参加者の声

歯科の臨床において、3Dモデルなどの視覚情報を提示できることの利点を実感しました。



2

研究者の道を経験

本学大学院での研究に興味がある、卒後の研究活動や技術の習得を今から始めたい、という学生を対象とします。また歯科学生自ら研究を行い、研究発表を行うことにより、歯科医学を科学的な目でとらえることのできる貴重な研究発表の場であるスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRIP)への参加を支援します。



3

インターンシップを経験

大学の臨床実習では経験できない臨床の現場を体験することが可能です。外部の診療所などでの職業体験を通じて、仕事内容を理解することでスキルやモチベーションアップが期待できます。



参加者の声

技術や治療の流れ、患者とのコミュニケーションを学び、非常に有意義な時間を過ごしました。



4

国内外短期留学を経験

本学で実施している短期留学制度(香港など)を利用します。また自身で開拓した留学先も選択可能なので、アメリカ・イギリス・オーストラリアなど英語圏なども含めて検討可能です。



参加者の声

シドニーでの4週間の留学を通じて英語力と異文化理解が向上し、様々な異文化の友人を得て今後の支えになると感じました。



5

桜美林大学 × 実践で学ぶ 歯科医院経営

歯科医院開業に必要なマネジメント知識を学ぶ「ビジネス演習(歯科医院経営)」を桜美林大学と連携し開講。羽田空港のターミナル歯科を題材に決算資料を用いた実践的な授業を行います。



参加者の声

歯科医師として経営の難しさを実感し、将来の医院経営に役立つ経験を積みました。



取り組み事例【1~3年生対象】



総合試験

進級

対象となる学生

- Stage IVまでのGPA3.5以上
- Stage IVまでに不合格科目がないこと
- 再追試験がないこと
- 多欠席がないこと
- 補完未修了科目がないこと

過去のデータから、確実にストレートで歯科医師国家試験に合格できる学生層



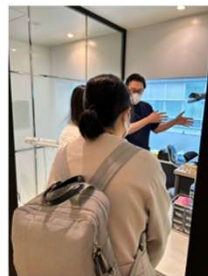
上記を満たし、活動を希望する学生は、あらかじめ申請書および活動計画書を提出し、承認を得る必要がある。活動終了後には、活動終了報告書を提出し、評価を受ける。

「自己探求学」導入の背景

- 従来、成績不良者に対しては、学修支援室の活用、チューター制度、頻回な担任面談、特別補講の実施など、手厚いサポートが提供されている。
- 一方で、成績上位者に対するインセンティブは、学年上位3名を対象とした特待生制度のみに限られていた。
- こうした中、特待生には届かないものの学業成績が優秀な学生に対しても、学修意欲をさらに高めるための方策として、本制度を導入した。
- 「自己探求学」の名称は、学生からの公募によって決定された。

自己探求学の活動事例 —他学部連携によるビジネス演習—

神奈川歯科大学と包括連携協定を締結している桜美林大学ビジネスマネジメント学群が連携し、全4日間・計16コマにわたるビジネス演習が実施された。両大学の学生による混成チーム（4～5名）を4グループ編成し、協働で課題に取り組んだ。演習では、羽田空港第1および第3ターミナル歯科を題材とし、現地視察を行ったうえで、実際の決算資料や経営環境に関する情報を用いて、会計・財務分析、環境分析、経営戦略の立案を行った。各グループは、分析結果と戦略提案を両院の院長に向けてプレゼンテーションし、実践的なフィードバックを受けた。



羽田空港ターミナル
歯科を現地視察



桜美林大学新宿キャンパスで
経営学専門教員の講義を受講



実際の経営・会計データを用いて
桜美林大生とグループワーク

桜美林大生との
混成チームでの活動
はどうだった？

最初は、歯学部
の授業とは全く異なる内容で、
聞き慣れない言葉も多く、戸惑う
ことが多くありました。しかし、授業
が進むにつれて経営に関する専門的な
知識が少しずつ理解できるようになり、
桜美林大学の学生の方々ともお互いの
知識を共有しながら、良いグループ
ワークができたと感じています。
将来、自分自身が歯科医院を経営
する際に、今回の学びが少し
でも役立てばいいなと
思っています。



羽田空港ターミナル歯科の院長へ
戦略提案をプレゼンテーション



目次	
● ご依頼内容の確認	p.02
● 環境分析	p.03
● 歯科医院分析	p.11
● マーケティング戦略	p.17
● 企業提携	p.20
● 期待効果	p.26

グループワークの成果



ビジネス演習を通じて、「利益の追求だけでなく、常に患者を第一に考える姿勢の重要性」を再認識した。

③ 留学生対象の歯科医師に必要な語学力向上を目指す科目

- 神奈川歯科大学では、文部科学省のキャンパスアジア構想に基づき、外国人留学生を対象とした入学試験を、韓国で2011年度から、台湾で2013年度から実施している。
- 2016年以降、127名の外国人学生が神奈川歯科大学を卒業し、日本の歯科医師免許を取得している。

2026 年度

入 學 考 試 要 項

外国人留学生特別入學考試



神奈川歯科大学

Kanagawa Dental University

神奈川歯科大学 歯学部歯学科



Kanagawa Dental University's Platform

神奈川歯科大学はメディカルアートサイエンティストの育成をめざす医療教育機関です。
そして、横須賀本校を基点に10の点を結んだ線をプラットフォームとし、
アジアを対象に面へと展開していくことが本学の戦略的未来化構想です。

アジアへ展開

Tokyo

Kanagawa

アジアから受け入れ



東京歯科衛生専門学校(北区)



歯科・健脳クリニック日本橋(三越本店)



横浜クリニック／横浜研修センター



羽田空港第1ターミナル歯科



羽田空港第3ターミナル歯科



神奈川歯科大学／神奈川歯科大学短期大学部

歯学教育国際化の目的

異文化交流を通してグローバル時代に対応できる 国際的医療人の育成



神奈川歯科大学羽田空港第3ターミナル歯科
院長 佐藤 イテヒョン(2018年卒)



韓国・仁川 治癒歯科
院長 李 建五(2017年卒)



神奈川歯科大学同窓会 韓国支部

神奈川歯科大学の外国人学生数

2025.05.01現在

学年	学生数	韓国	台湾	中国	その他	合計
1年生	127	21	6	8		35
2年生	84	6	5	8	カナダ 1	20
3年生	122	7	8	8	アメリカ 1	24
4年生	124	2	2	2	モンゴル 1	7
5年生	107	9	11	1		21
6年生	126	10	8	0		18
合計	690	55	40	27	3	125

外国人学生比率:18.1%

語学力向上のみならず、学修成果の向上を目的として
日本人学生と外国人学生がお互いに支え合いながら学べる環境づくり

学生の双方向交流の促進



「歯学のための日本語」(1～3年次:外国人学生必修科目)

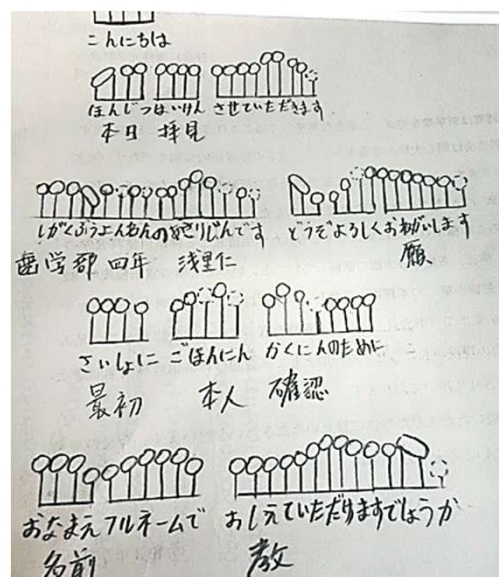
- 歯科医師として必要な日本語能力を身に着ける。
- 「人と関わる」「社会に通ずる」日本語能力を身に着ける。
- 継続して取り組める日本語学習の習慣をつける。

	科目	Stage	進級判定基準	内容
1年生	歯学のための日本語Ⅰ	StageⅠ～Ⅳ	日本語能力試験JLPT-N2	読む、書く、聞く、話す N2対策
2年生	歯学のための日本語Ⅱ	StageⅠ		読む、書く、聞く、話す オンラインにて日本語口頭運用能力テストOPI（外部）を受験 全員N1受験を目指す
3年生	歯学のための日本語Ⅲ	StageⅡ	N1（2026年度3年生から実施）	読む、書く、聞く、話す 2年次のN1不合格者は、StageⅠ～ⅢにてN1対策の補講
4年生	医療コミュニケーション のための日本語	StageⅢ		聞く、話す（やりとり）、話す（表現） 独自に構築した歯科医療特化型OPI形式で評価
5年生	診療参加型臨床実習			

1～4年次にわたって段階的な評価基準を設ける。

「医療コミュニケーションのための日本語」(4年次:外国人学生必修科目)

- 日本語で患者や医療スタッフと良好かつ円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 独自に構築した歯科医療特化型OPI形式で評価



プロソディーグラフ

1. 漢字の読み方 ※(1)～(10)の漢字をひらがなで書いてください。

- | | | |
|------------|---|-------|
| (1) 挺出 | → | _____ |
| (2) 天然歯 | → | _____ |
| (3) 唾石症 | → | _____ |
| (4) 透過像 | → | _____ |
| (5) 捻転歯 | → | _____ |
| (6) 知覚過敏 | → | _____ |
| (7) 二次齲蝕 | → | _____ |
| (8) 乳酸桿菌 | → | _____ |
| (9) 智歯周囲炎 | → | _____ |
| (10) 多形性腺腫 | → | _____ |

授業評価アンケート

10. 自由記載欄

- 今回、医療面接の演習に本当に役に立ちました。
- この授業は本当に助かります。
- 先生方の助けに感謝します！

日本人学生を対象とした「中国語入門」「韓国語入門」(1年次:自由科目)



4. 自由記載欄

- 中国語の単語や発音は、なかなか覚えられませんが、中国の方と中国語で一言でもお話ができると本当に嬉しいです。留学生の方が日本の大学で学ぶ大変さも、以前よりはわかったと思いました。
- この間とは違う留学生の方と交流が出来たので良かったです。

(木曜日 4時限目)

中国語入門

日本人希望者

(月曜日 2時限目)

韓国語入門

日本人希望者

途中から合流
双方向交流



(月曜日 2時限目) (木曜日 4時限目)

歯学のための日本語 I

外国人学生



10. 自由記載欄

- 韓国語には興味があり、日本語と似ている部分が多く理解ができた。さらに、韓国人の方たちとも多くの友達が出来て楽しい学校生活を送れているので良かったです。
- 日本語と韓国語は発音が似ている言葉が多いのに驚きました。読めない文字や発音できない言葉もたくさんあるのでこれからも学修していきたいです。
- 新しい言語を学び文化を知れて楽しかった。引き続き韓国語を楽しみたい。
- 言語でも非言語でもコミュニケーションによって様子が知れた
- 自分の席の周りに韓国人の留学生の方が多く興味本位で最初ははじめましたが授業を通してより留学生の子達とコミュニケーションをとることができ本当に良かったです。 本当に基礎の基礎からはじめたので毎回授業についていくのが大変でしたが楽しかったです

④ 歯学部教育の質保証の取り組み

P D C A サイクル上の役割分担

学修支援室、学年主任
・学生からの情報収集

教育企画部

- ・教育計画の立案、シラバス大枠作成、シラバス修正
- ・教育に関する各種アンケートの立案
- ・教材コンテンツの立案

教学IR

- ・LMSの基本設計

全学系教員

- ・シラバスの詳細案作成

教育企画部・教学部

- ・教育環境の構築

全学系教員

- ・シラバスに基づく授業実施
- ・教科書の決定と販売に関する調整

教学部

- ・授業評価アンケートの実施・集計
- ・教育に関する各種アンケートの実施・集計
- ・教学事務の運用

教育企画部・教学部

- ・教育環境の改善

全学系教員

- ・教育内容の改善

教育企画部

- ・改善計画の立案
- ・授業科目・内容の見直し、提言

教学部

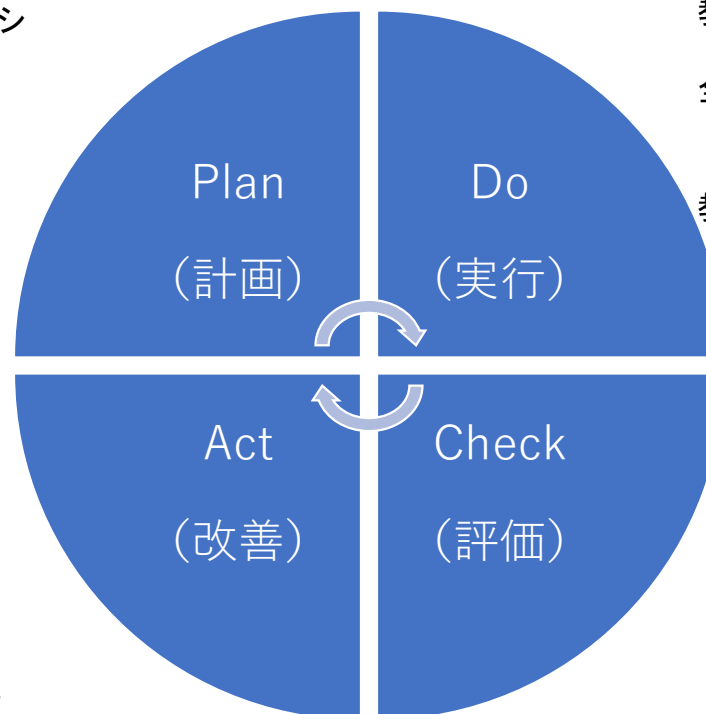
- ・成績の集計

教育企画部

- ・授業内容のチェック

教学IR

- ・授業評価・各種成績データの分析
- ・教育に関する各種アンケートの分析



歯学部教育における課題の抽出、改善策の策定、および合意形成

1. 卒業時アンケート

2. 授業評価アンケート

3. 事案ごとの学年アンケート

4. 学生参画による教育企画部による聴き取り

学生

体制

教員

5. コース責任者によるカリキュラム把握

6. 担当者間での調整、改善提案 (PDCA)

7. 教育企画部ミーティング (スタンスペーパー作成)

8. 教学部等との合同ミーティング

9. 教育委員会報告・審議

10. 教授会報告・審議

4. 今後の展望

「かもめのケイディくん」



翼に勇気を、
くちばしに愛を、
大きな瞳に未来

内部質保証活動に係る今後の展望

- 全学的PDCAをさらに明示化して周知に努めるとともに、重要な根拠資料の集積を推進する。
- 内部質保証委員会活動のさらなる充実化に努めるとともに、自己点検・評価結果における問題点が端的に把握できるようにし、次の計画に着実に反映できるよう改善する。
- KDU2028計画の進展状況の確認と、進展状況に合わせて、適宜、計画の修正を実施する。